

山武市子ども・子育て会議（平成 30 年度第 2 回）要旨

日時：平成 31 年 3 月 26 日（水） 10 時 00 分～12 時 00 分

場所：山武市役所（車庫棟 2 階） 第 6 会議室

出席者：委員 13 人／20 人

事務局 12 人（教育部 3 人・保健福祉部長・子育て支援課 7 人・健康支援課 1 人）

傍聴人：1 人

進行：子育て支援課主幹

議事進行：会長

議事結果

(1)報告事項

- ①平成 31 年 4 月の市内各園新規入園者数・利用定員について…了解
- ②まつおこども園の移転に係る進捗状況…了解
- ③幼児教育無償化について…了解
- ④むつみのおか幼稚園の休園について…了解
- ⑤第 2 期山武市子ども・子育て支援事業計画ニーズ調査結果…了解

(2)協議事項

- ①第 2 期山武市子ども・子育て支援事業計画における量の見込み…放課後学童クラブについて委員より現状の課題等について意見あり。今後、その他の意見もいただきながら計画案を作成していく。
- ②平成 31 年度子ども・子育て会議のスケジュールについて…事業計画策定の年となるのでご協力をお願いする。多くても 7 月、9 月、11 月、3 月の 4 回を予定している。

敬称略

1. 開 会〔進行〕

会議成立の報告〔進行〕

（委員 20 名中 13 名出席。会議条例第 6 条により、過半数を超えたので会議開催。）

2. 挨拶〔会長・保健福祉部長〕

3. 議事〔会議条例により議事進行：会長〕

(1) 報告事項

- ①平成 31 年 4 月の市内各園新規入園者数・利用定員について

〔説明：子育て支援課事務局〕

- ・ 資料 1「こども園等利用状況一覧」をもとに説明
- ・ 過去 5 年に遡り、各園の 5 月の在園児数（H31 年は 4 月）を歳児別で報告

- ・ H31.4.1 現在、待機通知希望者と特定の施設を希望する方を除いて待機児童は0となっている。

◇内容への質問・意見

特になし

②まつおこども園の移転に係る進捗状況〔説明：子育て支援課事務局〕

- ・ 現在、入札による施工業者の選定を進めており、4月中旬に落札業者を決定する。工期は2019年7月から2020年2月末までの8ヶ月を予定。2020年3月末に引越し業務を完了させ、2020年4月1日に開園する。
- ・ 資料2をもとに既存の教室が改修後どのような部屋になるかについて説明
- ・ 前回の会議において、ご意見をいただいた場所については以下のとおり
 - i 「東側階段のすき間」
 - すき間を埋める対応を図った。
 - ii 「木戸川付近へ園児が立ち入らないように」
 - フェンスで囲み、園外へ出られないように対応した。同様に、駐車場と園庭もフェンスで仕切られ、園児の安全確保は図っている。
 - iii 「進入路が狭くて危険」
 - 引き続き関係者と協議を進めているところ。

◇内容への質問・意見

特になし

③幼児教育無償化について〔説明：子育て支援課事務局〕

- ・ 10月から消費税増税に伴い幼児教育無償化の内容について資料に沿って説明。
- ・ 幼稚園、保育所、認定こども園、地域型保育等を利用するこどもで、3～5歳が利用料無償化の対象（実費徴収は無償化にはならない）。0～2歳の住民税非課税世帯も利用料無償。
- ・ 幼稚園の預かりを利用するこどもで、保育の必要性があると認定を受けた場合は幼稚園利用料無償化に加え利用実態に応じ、認可保育所平均月額と無償化限度額差額（最大11,300円まで）の範囲を無償化。
- ・ 認可外保育施設等を利用するこどもで、保育の必要性があると認定された3～5歳は月額37,000円まで、0～2歳は住民税非課税世帯月額42,000円までが利用料無償。対象となる施設は県に届け出を行い指導監督基準を満たす必要がある。
- ・ いわゆる障害児通園施設を利用するこどもは、3～5歳が対象。幼稚園・保育所等と両方利用の場合は、両方とも無償化。

◇内容への質問・意見

Q1.〔委員〕認可外保育施設は何か所あるのか？

A1.〔子育て支援課事務局〕松尾ゴルフとさんむ医療センターで2か所。

Q2.〔委員〕ベビーシッターには資格や登録が必要か？

A2.〔子育て支援課事務局〕届出が必要。

Q3.〔委員〕給食費の無償化は？考えていただければありがたい。近隣市町村でも給食費の無償化を始めているところがある。

A3.〔教育部長〕給食費の無償化には2億強の財源が必要となる。毎年この財源を確保していくのは難しい。

④むつみのおか幼稚園の休園について〔説明：子育て支援課事務局〕

- ・平成31年3月8日現在、平成31年度入園希望者が0名となり、今後入園見込みがないことから、平成31年4月1日から休園とした。経緯は以下のとおり。

H30.12.3 平成31年度新規入園募集を開始

H30.12.14 4歳児： 12名 5歳児： 9名

H31.1.31 4歳児： 6名 5歳児： 9名

H31.2.28 4歳児： 4名 5歳児： 9名

H31.3.5 4歳児： 3名 5歳児： 9名

H31.3.7 4歳児： 3名 5歳児： 9名

- ・入園希望者が新4歳児の3名のみとなり、幼児の健やかな成長にとって大切な集団活動や異年齢交流の機会が保てず、山武市教育が目指す目標を十分に達成することが難しい。このため、3名の保護者の方には、市から現状を伝えたところ、3名全員が日向幼稚園への入園を希望した。
- ・家庭的保育事業所等として、平成28年9月1日から保育事業を運営していたすずらん保育園が平成31年1月31日をもって閉園した。保育にあたる職員の一斉退職とそれに代わる人材の確保が困難との理由。
- ・在園児5名については、日向保育園に1名、なるとうこども園に1名転園したが、残りの3名は市外在住ですずらん保育園に勤務する職員の子どもだったため、退園となった。

◇内容への質問・意見

Q1.〔委員〕質問ではなくお願い。今回のすずらん保育園のようなことはないようにしていただきたい。小規模施設の認定は慎重に行ない、見守り体制の確保を図っていくべき。

Q2.〔委員〕こちらも質問ではなくお願い。むつみのおか幼稚園について、市の都合の良い状態で園舎の貸し出しをお願いしたい。支援センターでの使用が見込まれる。

⑤第2期山武市子ども・子育て支援事業計画ニーズ調査結果〔説明：委託業者〕

- ・「山武市 子ども・子育て支援に関するニーズ調査 調査結果報告書」をもとに説明。
- ・有効回答数が380通を上回っているため、信頼度の高い調査結果となっている。

- ・ 問 5 配偶者関係について、シングルマザーまたはシングルファザーが全体の 1 割を占めている。
- ・ 問 9 「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」の割合が 60.9%と最も高い。他市が 3 割程度なのに比べると山武市はお子さんをみてもらえる親族・知人がいることが多い。
- ・ 問 19 たまに利用したい理由について「平日に済ませられない用事を済ませるため」や「休養・息抜き（リフレッシュ）のため」との回答が次点で多い。これは保護者の方が自分のために時間をつくろうとしていることがわかる。
- ・ 問 26 平成 25 年度調査と比較すると「放課後学童クラブ（学童保育）」の割合が増加している。これには「小 1 の壁」が影響していると考えられる。

（２）協議事項

①第 2 期山武市子ども・子育て支援事業計画における量の見込み

〔説明：子育て支援課事務局〕

- ・ 資料に基づき説明。量の見込みに対する意見をお聞きしたい。

◇内容への質問・意見

- Q1.〔委員〕放課後学童クラブは 1 から 4 年生までか。
- A1.〔委員〕1 年生から 6 年生まで。しかし、4・5 年生になると部活も始まるため時間帯にもよるが人数は少ないと思う。
- Q2.〔委員〕学童クラブは利用定員があるが、入れない子どもはいるのか。
- A2.〔保健福祉部長〕市全体を見ると、定員は 550 名。うち、5 月 1 日現在 481 名。利用率は 87%。低学年のほう希望者が多く、1 年生 125 名、2 年生 120 名、3 年生 93 名、4 年生 73 名、5 年生 46 名、6 年生 24 名となっており、高学年になるほど減っていく。
- Q3.〔委員〕先ほどの結果のところ、放課後学童クラブを利用したいというように希望する割合が 5 年前の調査に比べて増えていると考え、今後利用者数が想定以上に増加してしまうケースもあり得る。5 年前の調査でデータとして、地域ごとで「利用したい」と答えていた人たちが実際に利用したかどうかということと、回収率のデータ、今回の 30 年度の調査の希望割合からどれくらいのニーズが生じるのかといった予測値は立てられると思うが、そういった分析はしているのか。
- A3.〔子育て支援課事務局〕今後、量の見込みを出していく。
- Q4.〔委員〕5 年前の調査のデータを使えば、実数値と予測値がある程度見えてくる。それを使った上で平成 30 年度の調査結果からどれくらいの範囲で利用者が出てくる見込みになるのかといったことを検討していただければと思う。ぜひ分析を進めていただきたい。
- Q5.〔委員〕幼児教育の無償化があり、給食費は徴収するといった説明もあった。学童を利用する金額が負担になっているということはあるか。
- A5.〔子育て支援課事務局〕基本は月額 7,000 円。兄弟が入っている場合には、2 人目が 3,500 円、非課税世帯の人であれば、また半額。現状、人数的には少ないが、納付が滞ってしまう世帯、遅れてしまう世帯も発生している。もしかすると利用料については多少の負担はあるのではないかと思う。

- Q6.〔委員〕7,000円というのは高いのか。
〔委員〕他の自治体と比較して、金額は高いのか。
- A6.〔子育て支援課事務局〕さほど差異はないと思う。外から転入されてきて使う方たちから高いといった話は聞いていない。
- Q7.〔委員〕迎えにくる時間が遅くなるということもあるだろう。時間が延びてしまうことがあると聞いたことがあるのだが、実際にはどうか。
- A7.〔子育て支援課事務局〕：山武市は基本6時まで。延長して、7時まで預かっている。その中で、7時を超えてしまうような保護者が何名かはいる。
- Q8.〔委員〕その理由は。
- A8.〔子育て支援課事務局〕仕事が終わってから迎えに来るため、仕事が長引いてしまったというのが理由。
- Q9.〔委員〕ときどきなので、常時ではないのか。
- A9.〔子育て支援課事務局〕常時ではない。常時になってしまうときつく注意等することとなる。たまにと聞いている。

◇事務局より中間説明あり〔子育て支援課事務局〕

- ・来年に量の見込みの詳細な部分は決めていく。その前にいろいろなご意見をいただきたい。例えば今の放課後学童クラブだと、前回の事業計画の中での課題というところで、小学6年生までの受け入れに対応するため受け入れを広げていくというようなものも挙げている。この結果からも、需要が高まってきているということはわかる。しかし、少子化は進んでいるので、今後溢れることはどうなのかといった辺り。自由意見をここでいただければと思う。
- ・学童と利用者支援事業の内容について、ハピネスの周知度や利用してみたといったところでの設問もあった。新しい事業にもなっているのでご意見をいただければと思う。また、ファミリーサポート事業というところで、お子さんを預けたいといったときに利用したかということ、今回の調査では「利用していない」という結果が見られている。ただし、実情は利用していないが、今後そのようなものがあれば利用したいかといわれると、適度な需要があった。ファミリーサポート事業を立ち上げることや、今後の課題など、お話をいただければと思う。
- ・量の見込みの中で、課題となる部分の3事業（放課後学童クラブ、利用者支援事業、ファミリーサポート事業）を挙げさせていただいた。具体的な量の見込みは来年度の作業の中でご意見を伺いながらやらせていただきたいと考えている。率直なご意見があればこの場でお伺いさせていただき、具体的な量の見込みと数値を示した上でお話させていただくのは来年度というかたちにさせていただきたいと思う。

◇内容への質問・意見

- Q1.〔子育て支援課事務局〕ニーズ調査の54ページ問30で、「お子さまの放課後に必要と思うものは次のうちどれですか」ということで、「大人の見守りによる安全・安心な居場所」の割合が6割あるということだった。その他に、2割のところ「学力を高めるための学習支援」、それから「学びのきっかけとなる体験活動」「宿題の支援」といった学習に関するニ-

ズもあった。これを放課後どのように市のほうで取り組んでいったらよいのかというのが1つ課題として抱えている。いろいろな方法があると思うが、国では、放課後子ども教室等総合的に進めていかなければいけないのではないかという総合プランを立てなさいというかたちをとっている。市としてどのようなかたちで取り組んでいくのがよいのか、ご意見いただければと思う。

A1.〔委員〕アンケート調査をしたときに、保護者から学習面のことをやっていただけないかといった意見があった。支援員の中に外国の方が働いているので、その方におやつするときなどに英語を交えて話をしていただき、質問したことに関して答えられるようなレベルまで上がってきている。そのようなことはNPOとしては行っている。親のニーズに応えるためにどうしたらよいのかは日々考えているところ。子どもたちは放課後からくるので、その時間帯をどのようにとっていったらよいかということは模索中。夏休みに関してはその時間を確保できている。今は春休みに入っているので、GAAに9時から10時まで学習支援をしていただいている。

Q2.〔委員〕まずは市の現状として、放課後の学童の時間にどのような活動を行っているのか説明していただきたい。

A2.〔子育て支援課事務局〕学童では、学校が終わって宿題など勉強をする時間が設けられている。その後、おやつ、遊び、お迎えというかたち。学習の指導は、学童の支援員は行っていない。30年度は希望する学童がGAAにお願いして入っていただいている。29年度はGAAで、何か所か回っていただいていた。学習指導を行う場合には、学習、宿題の時間としてとっている時間の中でやっていただいている。

Q3.〔委員〕希望ということだが、どれくらいの割合で実施しているか。

A3.〔子育て支援課事務局〕学童クラブとGAAとのやり取りになるため、把握していない。

Q4.〔委員〕日向小学校の放課後子ども教室は、月に1回、9か10教室で行っている。毎年実行委員の方と協議して、ずっと続けている。ただし、4～6年生の希望者だけなので約70名が参加している。当初から教えるということではなく、興味を持っていただくということ。子どもたちは手先が不器用になっていて、昔は編み物なども小学校高学年くらいでわりとできていたのだが、編むことも難しく、時間がかかる。そろばんもやっているが、今は授業でもやっていないため、やったことがない子どもたちがいる。玉の運びくらいしか教えられないが、そろばんを使わないで暗算でやってしまう子もいる。教えるという感覚ではなく、遊びの一環でこういったことがあるんだよというくらいのもの。文科省で、放課後学童クラブと放課後子ども教室を合わせたかたちでやってもらいたいということ。実際にはボランティアで集まっており、高齢の方が多い。毎日ということとはとても無理だと思う。毎週1回くらいであればと思うが、学校のほうでもいろいろな予定が入っているため月1回も難しいと言われる。教育委員会、生涯学習課のほうでお世話になっているが、山武市の全部の小学校にそれぞれがあるととても大変ということで今は3校。全部の学校にということは無理と言われている。私のほうがどうしたらよいかわからないので、逆に聞きたいくらい。市が本気で全部の学校で放課後学童クラブと同じように放

課後子ども教室も一緒にやる気があるのかどうかは私には見えない。やる気はあるのか。

- A4.〔保健福祉部長〕元々、文部科学省の放課後子ども教室、厚生労働省の学童保育、2つの制度が動いていた。それを合わせて、将来的には放課後子どもプランというのを内閣府のほうでつくっていかうといった流れ。市としては、学童を各小学校単位で行っているが、その中でより教育面を重視した学童保育ができないかというところが喫緊の課題として考えているところ。市の子どもたちの学力を少しでも底上げする必要もあるのではないということで、放課後等も使った中で、GAA という教員の OB の方が中心になってつくった NPO がある。その支援を受けながら学童に入っていて、少しずつでもそういったところを広げていけないかと考えているところ。具体的にはごく一部だが、昨年から経済的に恵まれない方々を対象に、月4回各中学校単位、4か所で始めたところ。そういったものをどんどん学童にも入れていき、先々市の子どもたちの学力向上につなげられたらと計画している。今後、放課後子どもプランを保育園の児童健全育成事業の中で検討するにあたり、ご意見をいただければと思う。
- Q5.〔委員〕学力の定義にはいろいろある。一番イメージしやすいのはテストでよい点数がとれるといった話だと思うが、知識や技術を身につけるということだけではなく、興味や関心を広げていく、主体的に学ぶ姿勢を身につけるといったことも学力として捉えられている。このように考えたときに、例えば学習習慣を身につけるためにどのような取り組みをしたらよいのか、専門的な知識を持っている人が教えるというよりは子どもたちが主体的に学べる場といったものをいかに作りあげていくかといった観点でも検討していったらよいのではないか。
- A5.〔保健福祉部長〕鉛筆の持ち方から始まって、いろいろなことを教えてあげられるのではと思う。
- Q6.〔委員〕それに対する予算はあるのか。
- A6.〔保健福祉部長〕：事業の組み立て次第。
- Q7.〔委員〕今の学童の先生たちの中では手一杯という感じであれば、外部から呼ばざるを得ない場合もある。そういった方をお呼びするための予算さえあればいろいろなところが広がる。
- A7.〔保健福祉部長〕山武市の地方創生があり、その1つが人づくりといったテーマになっている。そういった意味では力を入れていく分野だと思う。この場で計画を検討していただいて、このような計画だからということで予算をつけましょうという流れになっていくので、忌憚のないご意見をいただければと思う。
- Q8.〔委員〕子どもたちが何のために学ぶのかということも必要。学校に入るため、よい就職ができるためなど、そのように親が教えていけばそうになっていく。本当に自分が好きなことで経済的に自立できるようにということまで考えるのであれば、どのような教育をしたらよいのかということもあるのではないか。ただ、小学生のときからどのような教育をすればよいのかというところを、まず親が知らないといけない。
- Q9.〔委員〕宿題をやってきてくれるだけでも助かるというのが、実際放課後の学童の良さであったりする。塾の子どもたちは学校に車で直接お迎えに

きてくれて、放課後に塾にいつてしまうとといったパターンもある。やはり放課後の時間の使い方は変わってきていると思う。宿題をやってくれてというのは助かるが、 $+ \alpha$ という部分を保護者は求めている。テストの点数だけではないが、テストの点数が上がったらうれしいというのはみなさんあるのではないか。

- Q10.〔委員〕一方的に学童などの施設を用意して、この時間はこれをやりなさいと決めつけてよいのか。教育はいろいろな教育があるので、どの教育がよいのか、どんなことをやったらその人がよい人生になるのかというのを施設で決めつけて、この時間はこれをするといったことを決めるとか、予算をどのようにつけたらよいのかというのはとても難しい。学童の時間の中で、そこにいる子どもたちと大人たちが一生懸命考えて今やっているが、それを市がバックアップするというようにしたほうが、教育の自由が守られると思う。
- Q11.〔委員〕例えば、大学生になっても分数がわからないという子もいる。ピザの2分の1と、2分の1を足したら1だということわかるのだが、数字で2分の1足す2分の1は4分の2ですという大学生がすごく増えている。急にそれがちゃんと答えられるように、ここでどうしたらよいか考えていくようで、それはとてもつもないこと。今さらとは言わないが、何が原因だったのかということから考えないといけな。放課後の一部の時間に、ただ詰め込みの勉強を子どもたちに行うのがよいことなのか私には疑問。実際には何から手をつけてよいのかわからない。
- Q12.〔委員〕実際に山武市の小学生の学力で、テストの点数や全国学力調査といった数字以外の部分でどのような状況なのかという調査されているのか。具体的には日ごろの学習時間など、そのような調査をしていないのであれば、それをすることが必要。それがないと議論ができない。もしあるのであればそれを分析していくことが必要。
- A12.〔学校教育課事務局〕小学生は、今ご質問のあった意欲や関心といった部分で、一般的に4月で行われる全国学力学習状況調査の質問事項の中にもある。それ以外でも、各学校で意欲や、授業が楽しいといったアンケートは毎年とっている。
- Q13.〔委員〕それについて集計や分析はしているのか。課題として浮かび上がってきていることはあるか。
- A13.〔学校教育課事務局〕家庭の経済的な状況が最近大きく影響してきている。放課後の時間の使い方も小学生の中では差ができています。本市は全国的に見て、学力については点数的にいうと劣るところもある。そういったところも含めて、学校の授業だけではなく広いところのデータを集めてやっていかなければいけないということで、これから進めていきたい。
- Q14.〔委員〕学力以外の部分については、全国と比較してどうなのか。興味、関心、学習時間といったところはどのような状況か。
- A14.〔学校教育課事務局〕大雑把になるが、例えば小学生の放課後に対する時間の使い方で、家庭学習といったところは全国に比べて低くなっている。塾に行っている児童の割合は、保護者の送迎なども必要なので平均よりは低くなっている。
- Q15.〔委員〕そうであるなら、学習に取り組める時間をどう確保する支援を行

うかが1つの方向性にもなる。

Q16.〔子育て支援課事務局〕市の方で学力という面をどのように捉えるのか。知識やいろいろな興味関心もあると思う。その分野の様々な調査を行っているので、今後その分析を行いながら全体的な底上げを行い、この子育て支援事業計画に生かしていきたい。今後ともご意見をいただければと思う。

②平成31年度子ども・子育て会議のスケジュールについて

〔説明：子育て支援課事務局〕

- ・事業計画策定の年となるのでご協力をお願いする。多くても7月、9月、11月、3月の4回を予定している。

4. その他〔進行〕

◇事務局より連絡

- ・委員の皆様の任期が3月31日をもって終了するが、差し支えなければ引き続きこちらの議題等検討していただき、4月以降もお願いしたいと考えている。

5. 閉会〔進行〕